

【(株)中央設計技術研究所社長 笠松英昭氏 社員の安心・安全を守り、さらなる成長へ 「千丈温泉 清流にぜひお越しを！」】

中央設計技術研究所社長

Front Line 業界の最前線

笠松 英昭氏

社員の安心・安全を守り、さらなる成長へ



かさまつ・ひであき 石川工業高等専門学校土木工学科卒。技術士(上下水道部門下水道)。1978年入社し、下水道部長、営業本部長など歴任。趣味は海釣り、家庭菜園。金沢市出身、63歳。

水道、下水道、廃棄物・環境、情報処理の4分野における実績で地域に貢献する「水と環境のバイオニア」中央設計技術研究所(金沢市)。1947年に創設以来、水と環境のプロフェッショナルとして歩み続け、上下水道コンサルタント売上高で北陸トップ企業に成長。その専門技術を活かして、事業領域を全国に拡大している。前社長の中辻氏からバトンを受け継ぎ、5月に就任した笠松英昭代表取締役社長を訪ねた。

新型コロナウイルスの影響がある中での就任となり、「第一に、社員とその家族の安心・安全と、生活の安定というものを絶対的に保証していかなければならない」と決意。その上で「企業であり、このような状況にあっても品質を確保しながら、一定の業務量をこなしつつ、成長を目指していく」と抱負を語る。

今年3月以降、全国的な感染拡大を受けて、同社でもテレワークと特別休暇の併用などで、三密を避けるような対策を取ってきた。国の緊急事態宣言が解除されて以降、フェースシールドや飛沫感染防止のパネルなども順次準備し、ようやく応急対策が整った。今後、想定される感染拡大の「第二波」やインフルエンザ等に備えるため、BCP(事業継続計画)における感染対策を考えるワーキング部会も立ち上げ、検討を開始した。業績に関しては、「コロナの影響で、この数カ月は生産効率が落ちたが、計画通り今期は、九州でのOCHDグループ連携による積極的な営業展開と四国での受注を目指す。いよいよ2021年度から新たな経営目標である「CSE2025ビジョン(中期経営計画)」がスタートする。事業エリアを順

次拡大し全国展開の実現を図るほか、業務領域の拡大に向けて新たな発注方式である「官民連携によるPPP/PFI、DB/DBOの受注獲得に力を入れていく」と意欲。下水道以外にも下水道も含めて、配管路のDB方式などにも対応していく考えだ。また、システム分野においては、上下水道施設におけるアセットマネジメントシステムを開発、各自自治体への提案を強化する。

「千丈温泉 清流にぜひお越しを！」
同社は、上下水道事業をメインとしているが、石川県白山市において18年にリニューアルした千丈温泉「清流」の運営を担うほか、地域活性化会社の白山瀬波を設立して地域貢献に関する事業も行っている。「事業採算性は厳しいが、地域貢献と事業運営ノウハウを同時に身に付けていく」と、将来の上下水道施設におけるPPP/PFI事業を見据える。特に、「コロナの影響で「清流」の運営は厳しい。笠松社長自身もこれまで複数回利用しているというが、「人が密になることは一度もなく安心。自然が豊かでいいところなので、ぜひお越し下さい」と笑顔でPRする。和・洋室を備え、旬の地物食材を使った料理も楽しめる。